

実践に基づいた運用法と口訣

福島県立医科大学 会津医療センター

漢方処方集 運用の実際

[編著] 三瀨 忠道 (福島県立医科大学 会津医療センター漢方医学講座 教授)

編著者である三瀨忠道先生が漢方医を始めてから現在までの約40年にわたる臨床経験をふまえながら、**生薬診療や調剤の実践マニュアル**として実務に役立つ情報をまとめた処方集です。

- 方剤一覧には、著者の臨床経験に照らして参考になるとと思われるポイント、使用目標、有効であった疾患・症候などを記載。
- 服用方法(時間、量、合方、幼少児対応など)や生薬処方の調製方法をわかりやすく解説。
- 「お役立ち情報」として副作用や薬剤情報説明用の参考資料(一覧表)、患者接客時の注意、臨床現場からの一言(ワンポイントアドバイス)も記載。

目次

【序】本書作成の目的— 序に代えて
【解説】本処方集成立の過程について
【方剤】
【服用方法】
【生薬処方の調製】
【お役立ち情報】
【方剤索引】
【健康調査表】

新書判(172mm×102mm)/368頁/定価 4,950 円(本体 4,500 円+税 10%)



【申込書】

年 月 日

ISBN : 978-4-8408-1560-4		福島県立医科大学 会津医療センター 漢方処方集 - 運用の実際	定価 4,950 円 (本体 4,500 円 + 税 10%)	申込冊数	冊
ご送付先住所 〒			書店様番線印(書店申込)		
貴社・貴施設名(部署名)					
お名前		お電話番号			
メールアドレス(※任意)					

- 書店へのご注文は冊数をご記入の上、お近くの書店にお申し込みください。
- 弊社に直接ご注文の場合には必要事項をご記入の上、FAXにてお申し込みください。
別途送料(国内一か所送付につき550円、重量が5kgを超えた場合は850円)を頂戴します。
- ◆ 記載した個人情報、書籍発送のほか薬事日報社からの新刊案内等に利用させていただく場合がございます。

薬事日報社行きFAX
⇒ 03-3866-8408

服用方法や処方調整、副作用などの臨床に役立つ解説が充実↓

お黄

黄芩加半夏生姜湯 《傷寒論》

黄芩 5.0 芍薬 3.0 甘草 3.0 大棗 5.0 生姜 1.5 半夏 8.0

黄土湯 《金匱要略》

⑧黄土 8.0 黄芩 3.0 甘草 3.0 地黄・乾 3.0 白朮 3.0 附子 適量

黄連湯 《傷寒論》

半夏 6.0 黄連 3.0 甘草 3.0 桂皮 3.0 大棗 3.0 人参 2.0 乾姜 3.0

太陽與少陽合病。自下利者。與黄芩湯。若嘔者。黄芩加半夏薑湯主之。
 ③黄芩湯証にして嘔吐とあるが、黄芩湯で間に合うことが多い。

下血。先便後血。此遠血也。黄土湯主之。
 ③明らかな陰証の出血傾向。芍薬膠艾湯が及ばないとき。

傷寒胸中有熱。胃中有邪氣。腹中痛。欲嘔吐者。黄連湯主之。
 ③上熱中寒の嘔氣。顔は赤いが心下に冷えを触知することが多い。

↑実寸大

持ち歩きに便利なハンディサイズ。

処方の下段の③には著者の臨床経験に基づいた参考となるポイントを記載。

「エキス剤」「漢方処方」ごとに説明文を一覧表にまとめて掲載。
 患者説明や服薬指導に役立つ！

261 【服用方法】

- 一 生薬処方の服用方法
- (一) 煎剤・一般的には1日分を1劑とし、は分3で服用する。服用時には、保温で、1回分を分取し温めて服用(温湯電子レンジは好ましくないとする意見あり)。そのまゝ白湯で服用する。大々中に含み、柔らかくなったところで服用。
- (二) 丸剤・そのまゝ白湯で服用する。大々中に含み、柔らかくなったところで服用。
- (三) 散剤・白湯で服用する。
- (四) 酒服 特殊な服用方法。古典では地黄剤は温めた日本酒少量で、当帰芍薬散にもたれるなどの副作用が出てくる。

281 【お役立ち情報】漢方薬の副作用について

一 漢方薬の副作用について(取り扱い要注意を全副作用とは、本来の使用目的以外の好ましくない作用に注意すべき生薬を解説する。)

(参考) 副作用に対する漢方の特殊性と留意点 漢方薬。また各方剤はそれぞれ漢方医学の適応病態(方剤)が合っている治療効果があるはずである。方剤の有用性が正しかったことになる。すなわち、確定診断は治療以上の観点から、投与した漢方方剤が無効あるいは有害。好ましくない作用を伴った場合でも、患者と方剤の誤かりひいては合っていないと考え、処方を変更することになる。こうしてみると、「漢方に副作用はない」という考え方も、一応は頷ける。しかし実際には、治療目標には著効を示しても、思わぬ望ましくない作用を随伴すること(本来の副

291 【お役立ち情報】薬剤情報説明用資料

漢方製剤	副作用(主に注意すべき含有生薬)	方剤説明
安中散 あなうちさん	a	みぞおちの痛みをとり、消化を助け、神経性の胃痛などを改善します。
胃中湯 いなかう	a	体内の余分な水分を取り、胃腸の働きを助け、腹痛、下痢、吐き気などの症状を改善します。
茵陳湯 いんちんとう	*	肝臓の働きを助け、胆汁の分泌を促し、体内の水分のめぐりを改善し、熱や炎症を鎮める効果があります。
茵陳五苓散 いんちんごりやうさん	*	体内の余分な水分を取り、炎症、黄疸、吐き気などの症状を改善します。
温経湯 うけいとう	a	上半身に滞った血を巡らせ、下半身を温めます。
温清飲 うんせいいん	*	体の熱を冷まし、血のめぐりを促し、皮膚病を治して、のぼせ、高血圧、皮膚病のたれなどを改善します。
越婢加朮湯 えつひかじやくとう	*	体内の病的な水分の偏在を解消し、むくみ、腫れ、炎症などを改善します。
黄芩湯 わうじんとう	*	病弱な体を助け、皮膚の働きを正常化させます。
黄芩加半夏生姜湯 わうじんかはんげしょうきやうとう	*	悪寒や熱を伴う腹痛、下痢を治します。感染性の下痢などに応用します。

a<2.5g, b≥2.5g